

授業科目名	看護過程の展開実習			担当教員	小手川 良江、阿部 オリエ、 隈井 寛子、鬼丸 美紀、 本田 多美枝
開講年次	2年前期	セメスター	3	時間数(単位数)	135 (3)
必修選択	必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	健康障害を持った対象者との関わりを通して、看護過程の展開方法を学ぶとともに、看護学実習における基本的学習方法を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の行動を分析的に捉えることができる。 2. 看護過程を展開できる。 3. 看護過程の重要性を説明できる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 期間 (病院・学内) 2018年7月17日～8月6日(3週間) 2) 実習場所 嘉麻赤十字病院、熊本赤十字病院、九州病院、福岡赤十字病院、宗像医師会病院、山口赤十字病院 3) 指導体制 一つの病棟に学生3-7名を配置し、担当教員と実習指導者が主に指導にあたる 2. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全体オリエンテーション 実習目的および概要を理解する 2) 学内演習 看護技術練習 看護過程の第四段階 (実施)、第五段階 (評価) について理解する 3) 病院実習 入院している対象者1名 (もしくは2名) を受け持ち、看護過程の展開を行う 看護過程記録物のフィードバック 看護技術到達度表を用いた看護技術に対する学生の自己評価や教員からのフィードバック 自分が行った看護の意味について検討する 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 全体オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体オリエンテーション時は必ず実習要項を持参すること。その際、I . 看護学臨地実習の意義～X . 実習における注意事項およびレベルIIまで熟読しておくこと ・ 実習先の情報はHP などから事前に入手しておくこと ・ 昨年までの受持ち対象者情報を各自確認しておくこと (実習室1のファイル) 2) 学内演習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 受持ち対象者に実施できるレベルまで看護技術を練習する ・ 看護過程の第四段階 (実施)、第五段階 (評価) について教科書や資料などを用いて復習する 3) 病院実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習要項を確認し、主体的に病院実習に取り組む ・ 看護過程の記録物は病院実習期間中に完成させる ・ 自分が行った看護の意味について検討し、課題レポートにつなげる 		<p>小手川 阿部 隈井 鬼丸 本田</p>

	4) 学内実習 学内カンファレンス、面接、文献学習等を通して実践を振り返り、現象を探究する過程を経て、看護に対する理解を深めるレポートのフィードバック	4) 学内実習 ・実習要項を確認し、学内実習の目的を理解し、課題に取り組む ・文献検索を行い、レポートを作成する ・実習の評価を適切に行う			
先行履修科目	日常生活援助実習				
テキスト	特に指定しない。				
参考文献	既習科目のテキスト・資料 その他、対象者を理解するために、必要な文献を自ら収集・活用すること。				
学習のねらい	看護過程の展開実習では、健康障害のある対象者を受け持ち、人間関係を築きながら看護過程を展開する。これまでに学んだ知識を活用して対象者を理解し、必要な援助を考え実践する。看護実践を通して自分自身と向き合い、今後の学習の方向性や目標を見つめる機会である。学生自身の主体的な学習、責任ある行動が求められる。				
科目の位置づけ	本科目は、本学実習におけるレベルⅠの日常生活援助実習からステップアップしたレベルⅡに該当する。その後、レベルⅢへとつながるため、実習要項と併せ、よく理解しておくこと。また、人体の構造と機能、疾病と治療、人体と薬物などの講義科目、看護技術Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント、看護過程、治療検査と看護などの演習科目とも関連しており、これらの知識・技術を統合することが必要となる重要な科目である。特に看護過程は看護過程の展開実習と連動しており、看護過程の演習にて学内で学んだことを実習で対象者に実践することが重要である。看護過程を展開することで、対象者を適切に捉え看護を実践するために必要な基礎的能力を身につけることが求められる。また、看護技術については、看護技術Ⅰ・Ⅱで学んだ技術を臨地の場で実際に対象者に実践し、振り返りを行うことが求められる。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
	○	○	○	◎	○
評価方法	実習目標の達成度 (56%)、課題レポート (25%)、実習態度 (19%) により総合的に評価する。				